

平成30年度第1回京都市図書館協議会摘録

- 日 時：平成30年11月16日（金）  
午前10時30分～12時
- 場 所：京都市生涯学習総合センター 5階第6研修室
- 出席委員：[10名中7名出席]
- 岩佐 恭子 委員  
岩崎 れい 委員  
郭 昊 委員  
梶川 敏夫 委員  
河本 歩美 委員  
鈴木 美和 委員  
谷 武彦 委員（五十音順）
- 欠席委員：石川 一郎 委員  
矢野 保美 委員  
山野 修平 委員（五十音順）
- 傍聴者：4名

1 開会

- (1) 委員交替の紹介（柳田委員退任，谷委員就任）
- (2) 副会長退任に伴う新副会長の選出  
柳田前副会長退任に伴い，谷委員を副会長に選出
- (3) 中央図書館長の挨拶
- ・ 先日の新聞記事に，岡山県の新設図書館の紹介があった。そこは埋蔵文化財の発掘センターの施設を改修して作った図書館で，館の中にはいたる所に，かつてのセンターが所蔵していた出土品を展示しているそうである。
  - ・ 外部の者としては大変参考になった。地方公共団体はいろいろな美術品を持っているので，借りて来て置くということも考えられると思う。
  - ・ 右京中央図書館はテラスがあるなど，構造において利用者が雰囲気を楽しむ工夫を取り入れているが，その他，館内の各コーナーで気がつけば何かがある，ふと見ると啓発されるとか，なごむとか，そういうことも考えられると思う。
  - ・ 本日はそのような御教示も含め，図書館の未来に向けて，熱気のこもった御発言をお願いしたい。

2 報告事項

事務局から，資料に基づき，以下の項目について報告した。

- (1) 京都市図書館の利用状況等の推移について
- 貸出冊数と入館者数について，平成20年度から10年間の動きを見ると22年度のピークの後，3年間はやや減少傾向となっていたが，26年度に地域図書館で従来休館日だった日を開館し，さらに中央館も含む全館で開館時間を30分早める取組や，「ブックリサイクル事業」による新規利用者増加に向けた取組などにより，再び増加傾向となった。

しかし、28年度は施設の改修工事や停電による臨時休館、昨年度は5年に1度のシステム更新による臨時休館で、延べ開館日数が減ったこと等が影響し、貸出冊数、入館者数ともに減少となった。

一方で、予約件数やブックメール便による運搬冊数を見るとほぼ横ばいの状態で、これは利用者が読みたい本をインターネット等で予約して、身近な図書館に取り寄せて利用するという利用形態が定着してきていると考えている。

## (2) 京都市図書館平成30年度の取組状況について

### ア 4つの中央図書館における土曜夜間開館の本格実施

平成28年度から2年間にわたり、利用者の多い4つの中央図書館において、土曜日の開館時間を午後7時まで延長する取組を試行実施した結果、日の長い夏の期間、夜間利用が、その他の期間と比較して多いという状況が分かり、今年度から7月・8月において本格実施した。

今年度の利用状況は、1日当りの夕方5時以降の入館者は若干減少したが、貸出冊数は昨年より増加し、1日当りの終日の貸出冊数は3年間で最高となっている。

夜間開館のPRがまだまだ不足していると思うため、さらにPRに努めていく予定である。

### イ 利便性向上に向けた取組

#### (ア) 図書館ホームページの更新

京都市図書館ホームページのアクセス数はこれまでから多い状況であったが、平成30年2月のリニューアル後さらに増加している。特に子どものページへのアクセスが大幅に伸びていることから、子ども向けの行事等の情報提供が求められていると考えられるため、より充実したものにしていきたいと考えている。

#### (イ) 駅返却ポストの利用状況

平成29年11月に烏丸駅に増設し、日々多くの方にご利用いただいている。

#### (ウ) 府立図書館との「返却資料お預かりサービス」

平成29年11月から、府立図書館との「相互返却サービス」を試行実施して来たが、徐々にサービスが浸透して利用が増加し、30年11月1日から「返却資料お預かりサービス」と名称変更し本格実施している。

### ウ 図書資料の有効活用

#### (ア) ブックリサイクル

#### (イ) 雑誌付録の有効活用

平成27年度から開始している図書館で使わなくなった本や雑誌を利用者に無償で譲渡する「ブックリサイクル」や、29年度から取り組んでいる「雑誌付録の有効活用」は大変盛況で、特に付録については、開館後、早い段階で準備した付録が無くなるという状況である。付録は数が揃うのに時間がかかるため、年に2回程程度しか実施できないが、今後も継続して取り組む予定である。

### エ その他の取組

明治150年やパリとの友情盟約締結60周年を記念した事業、伏見中央図書館でのみよこ杣木を活用した児童コーナーの充実（木のぬくもり事業）、地元サッカーチーム「京都サンガ」や京都国際映画祭でのよしもとクリエイティブ・エージェンシーとの連携事業、高齢者を対象とした事業（あたまいきいき音読教室や健康体操等）に取り組んでいる。

### (3) 第3次京都市子ども読書活動推進計画の取組状況について

平成26年3月に策定され、本年度が5か年計画の最終年度となる「第3次京都市子ども読書活動推進計画」に基づく取組について、4点に絞って報告する。

#### ア 図書館整備

トイレの洋式化や改修を進めているが、30年度は左京図書館・久世ふれあいセンター図書館の2館で行う予定である。

また、乳幼児連れの保護者の方が気兼ねなく図書館に来てもらえるよう、地域館14館で児童コーナーの改修を実施しており、30年度は、左京図書館・醍醐図書館・久我のもり図書館の3館で整備を行う予定である。主な整備内容としては、絵本コーナーの床の張り替え、書架の増設などを予定している。

#### イ 出前事業専用車両「青い鳥号」による学校・園への出前事業の推進

軽ワゴン車の後部座席を改造して木製の本棚2連を搭載した出前事業専用車両「青い鳥号」に約200冊の本を積み込み、学校や幼稚園、児童館などへ行き、読み聞かせやブックトーク等の出前事業を行っている。

#### ウ 乳幼児の保護者用読書ノートの配布

乳幼児の保護者の方を対象に、子どもの成長に合わせて、その時々でよく読んだ本を書き込める「読書ノート」を作成し、8か月健診時に「ブックスタート事業」として絵本と一緒にに入れて配布している。

#### エ 学校図書館支援事業

子どもの読書習慣の確立に向けて学校と様々な連携を取っている。図書館司書による学校でのブックトークの実演や読み聞かせ講座の実施、学校団体貸出の推進、授業で使える推薦図書リストの作成、図書館内のティーンズコーナーの充実、全校に配置された学校司書のスキルアップ研修の支援などを実施している。

### 3 報告事項に関する質疑応答

意見 音読教室や体操教室など高齢者を対象とした取組では、高齢者関連機関と連携しているか。

回答 中央図書館で実施している「あたまいきいき音読教室」は図書館の職員が実施している。文学作品の有名な一節を参加者が音読する取組であるが、音読は認知症の予防に効果的といわれており、参加者に大変好評であるため、今後も定期的に続けていきたいと考えている。

右京中央図書館では毎月第三金曜日に映画上映会を実施しているが、上映前の15分程度の時間で「健康体操」を実施している。平日の午後ということもあり参加者は高齢者が多いので、右京中央図書館が設置されている複合施設内の区役所の高齢者医療担当部署の職員が来て、簡単な体操を実施したり、情報提供をしたりしている。

意見 出前事業専用車両「青い鳥号」の成果は出ているか。

回答 学校からのテーマの要望に応じて、公共図書館の蔵書の中から選んだ本を軽ワゴン車に乗せて学校へ持って行く。閲覧だけでなく、場合によっては貸出もでき、学校には大変喜んでいただいている。

意見 最近家庭ではトイレはみな洋式なので、トイレの洋式化はありがたい。

意見 乳幼児の保護者用読書ノートとはどんなものか、またその成果を教えて欲しい。

回答 保護者の方に気楽に使っていただけること念頭に絵を多用して作成したものである。

何歳くらいこのような本を読んだとメモ書きできるノートにしている。8ヶ月検診の際に配られるブックスタートパックに入れて配布し、活用いただいている。

現在、アンケートは取っていないが、好評の声は聞いている。

意見 PTAフェスティバルに「青い鳥号」来ているのを見ているが、すごく賑やかな中、子ども達が皆集中して静かに本を読んでいる様子で、とても喜ばれていると思う。

意見 サッカーチームや映画祭と連携したイベントは実施しているようだが、MLA連携（博物館・図書館・文書館との連携）はどうか。博物館や美術館との連携は行われているか。

回答 10年ほど前にMLA連携への関心が高まったときには、美術館に働きかけ、展示会の関連本を集めて図書館で展示したり、関連展示のちらしを美術館に置いてもらったりといった取組を実施していた。現在はいろいろな施設との連携が始まっており、MLA連携は進めていないが、大切だと思うのできっかけがあれば実施して行きたい。

#### 4 協議事項

事務局から図書館における継続的な課題、最近の課題、効果的な広報の在り方に関連し、以下の事項について説明した。

##### (1) 図書館における継続的な課題について

ア 中学生・高校生向け利用促進対策に関する提案

イ 子育て支援について図書館に期待すること

京都市では、子どもたちの読書習慣定着のため、平成16年度から進めて来た第1次から第3次までの子ども読書活動推進計画のもと、家庭や学校、地域や図書館など社会全体で様々な取組を行って来ている。

乳幼児期の家庭での読み聞かせや図書館行事などへの参加、幼稚園や保育所等での読書活動、主に小・中学校で実施している朝読書や読書指導、読書マラソンなどの取組により、本に親しむ子どもたちが増加している。中学生になると読書から離れる生徒が増える傾向にあるが、様々な取組により徐々に改善している一方で、現在は高校生の不読率の高さがクローズアップされて来ている。

来年度からスタートする第4次子ども読書活動推進計画の策定に向けて、策定会議が京都市立高校生に行ったアンケート調査では、約9割の高校生が「読書は大切」と考えているものの、「学校に行く日」「学校に行かない日」ともに「本を読まない」と回答した割合が大きく、読む場合でも「1日に30分まで」に切り上げる傾向があることや、本の入手方法では「買う（買ってもらう）」が1番多く、「家に本がある」「図書館で借りる」が続いているといった結果が出ている。

過去の読書状況に関する設問では、小学校の時に本を読んでいた生徒は約8割であるが、中学生で読書時間が約半分に減り、高校生になると少なくなり3割弱しかないという結果となっており、本を読まなくなった理由は「勉強」や「クラブ活動」が忙しくなることと、「スマホを利用する時間が増える」、などとなっている。

また、本を読む場合の理由としては「読書が楽しい」が1番多く、続いて「知識や情報が得られるから」、「時間つぶしや暇つぶし」となっている。

全体的には、読書は大切だと思うものの、勉強や部活動が忙しく本が読めていないというのが実態のようである。

本年4月に閣議決定された国の「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な

計画」でも、現状分析として中学生までの読書習慣の形成が不十分、高校生になり読書の関心度合いの低下、スマートフォンの普及等による子どもの読書環境への影響の可能性など同じようなことが指摘されており、

第4次計画改正のポイントとして

- ① 読書習慣の形成に向けて、発達段階ごとの効果的な取組を推進
- ② 友人同士で本を薦め合うなど、読書への関心を高める取組を充実
- ③ 情報環境の変化が子どもの読書環境に与える影響に関する実態把握・分析が上げられている。

こうしたことを踏まえ、中学生・高校生の読書離れを改善する手段等について御意見をいただきたい。

同時に、小さいころから本に親しんだ子どもの方が、そうでない子どもより読書から離れる可能性が低いことから、主に妊娠期から乳幼児の子育て中の保護者等への取組も継続して取り組むべき重要な課題だと考えているので、そのあたりについても御意見をいただきたい。

## (2) 図書館利用に関する最近の課題や効果的広報の在り方について

ア 図書館以外の施設等との連携による企画の提案

イ 図書館利用促進のための効果的な広報活動の提案

比較的新しい課題になると思うが、図書館で本を貸し出すだけではなく他の行政機関や専門機関等と連携し、市民の抱える課題の解決や高度な情報提供を行ったり、多様な事業を企画・実施したりして、図書館の利用を進めていくことが求められている。

また、そうした取組などの情報を、市民にしっかり届けることも大切になっているが、現在の取組以外にもまだまだ方策があると思われるので、これらの課題についても御意見をいただきたい。

## 5 協議事項に関する質疑応答

### (1) 図書館における継続的な課題について

ア 中学校・高校生向け利用促進対策に関する提案

イ 子育て支援について図書館に期待すること

意見 中学生は忙し過ぎて、本に向き合う気持ちの余裕がないと思う。

また、小学校の図書室は充実してきているようだが、中学校の図書室は小学校ほど充実していない印象がある。

がんばっているところもあるが、もっと中学校でビブリオバトルをしてもらったら、本の魅力というのでも伝わるかと思う。学校自体での実施は難しくても、出前でビブリオバトルを聞かせてもらうだけでも、このような本があるということが分かり、よいのではないかと思う。

回答 公共図書館に関する協議会であるので、学校図書館についての協議の場でないが、現在、京都市教育委員会では、学校司書の配置を徐々に進めて来ている。

また、京都市図書館でも、読み聞かせ、ブックトーク、ビブリオバトルなどの学校司書研修の講師として、学校司書の育成に協力している。

ビブリオバトルも5年以上前に公共図書館から始めた事業であるが、かなり中学校でも取組を進めて来ており、公共図書館で実施しているビブリオバトルの大会でも中

学生、高校生、大学生に参加いただいている。

意見 学校の状況全ては把握できていないが、小学校には学校図書館整理ボランティアがいて、読み聞かせサークルの方もボランティアで入っているが、中学校ではいなくなるようである。

地域の大人たちが図書館にいるということがあれば、子ども達にも読書の大切さをより感じられるのではないか。ボランティアが中学校に入ってもよいのではないかと感じている

意見 大学に入ってからいきなりデータベースの使い方、電子書籍の利用のやり方が出て来てあわてるということがあるので、本の利用促進の対策だけでなく、中学・高校までにデジタル情報の利用促進の対策も重要だと感じる。

意見 子育てサロンの保護者が常々つどい場を探しておられるということを感じている。そのようなつどい場の一つに図書館がなってもいいのではないか。つどい場に本があって保護者が本に触れる機会になったり、知識が得られたりとか、その場で育児相談といったアドバイスが得られたりできればいいと思う。

意見 高校生の読書活動が進むよう、読書のツールとして電子書籍の活用の仕方を伝えて行ってはどうか。

意見 高校生へのアンケート結果によると、読書は余暇の楽しみとして捉えているようで、勉強や部活が忙しくて「余暇」という時間がない、という答えになっているようだ。実際に読んでいる本について自由記述に書かれているものなどを見ると、人生の糧となる書物が読まれているのかどうか心配である。

意見 私たちが小学校の頃に読んでいたものが、今の小学生には読めていないと思う。想像しながら本を読んでいく力が薄れているように感じる。

意見 今の学生の大半は参考文献をコピーで貼りつけるなど、本を読まずにレポートを作成しているように思う。本を読んで情報収集するのではなく、スマホなど電子関係で情報を得るのが今の若者たちの趨勢という気がする。時間つぶしも本を読むよりスマホで遊んでいる印象がある。難しい課題だと思うが、電子に行きがちな若者をいかに本に向けて行くか考えて行かないといけない。

意見 小学校でよく本を読んでいた子も中学に入った途端に時間に追われて本を読む時間がなくなる。小学校でも高学年ぐらいから受験を目標とする子は早い段階からそのような生活に近づいているのでなかなか本には向かないと思う。

それでも小学校は、朝読書の時間を設けていたり、ボランティアや教職員が読み聞かせをしたり、高学年が低学年に読み聞かせをしたりと色々なことしながら本に親しんでいるのだろうと思う。

現在、部活にかなりの時間さいている中学校であるが、今はそれを抑える流れにある。子どもにも教員にもゆとりを与えて行こうという動きは少しずつ出て来ているので、今後期待したい。

意見 大人は調べるときに本に行くが、学生は便利で簡単なネット検索に行きがちである。本に向かわせるのはなかなか難しい課題。

意見 電子書籍は、少し前なら機器も図書館でそろえないといけない状況にあったが、現在は機器の標準化が進み、皆が持っているもので読めるということになって来ているので状況は今後変わって来るとは思うが、今のところデジタルの本より紙の本の方が流通しているのでそちらにお金をかける方が効率的であると思う。

意見 電子書籍だと自分でターゲットが何か分かっていないと検索しようがなく、探し出せない。自分の読みたい本が分からない子たちは紙の本がたくさん並んでいるのを見られる方が良いと思う。

意見 「時間がない」ということと、「読む力がない」ということの双方を考える必要がある。例えばどんなに忙しくても、「読む力」があり、読書が面白いと思っている子は隙間時間でも本を読めるが、読書へのハードルの高い子は難しい。時間と力の問題はセットで考えて行かなければならないと思う。

意見 学校司書の勤務日数が増えて来ているのはありがたい。週に1日だと図書の整理に終始し、なかなか建設的な仕事ができない。3日になると、子ども達や教員とのやり取りも増え、その中でニーズも分かるので働き掛けもしてもらえ、掲示物など子どもの読書への興味を引き立てることもやってもらえる。教員のみだと様々な業務の内の一つとなりなかなか進まないところがあるが、専門家の立場の人が校内にいることはすごく大きいと思う。

## (2) 図書館利用に関する最近の課題や効果的な広報の在り方について

ア 図書館以外の施設等との連携による企画の提案

イ 図書館利用促進のための効果的な広報活動の提案

意見 もっと地域のボランティアを有効に活用されることも、必要であると思う。ボランティアは熱意だけでなく、スキルも必要だ。ボランティアの資質向上のための講座や研修等を、図書館が中心となって行っていただきたい。

回答 公共図書館では主に書架の整理を中心にやって下さるボランティアを募っており、各館で本の並び方や分類などのレクチャーを実施している。

その他、読み聞かせなど、各図書館での行事に協力いただいているボランティアの方々もいらっしゃるが、現状その方々に対して研修は行っていない。

意見 考古資料館では文化施設等への考古資料の貸出を行っているので、図書館で地域の出土品を飾ることは可能であると思う。

ただ、職員は発掘に回っており大変忙しく人的な援助は難しいため、解説、盗難されないような展示施設、運搬への対応を図書館側でクリアする必要があるが、京都市の考古品は素晴らしいものもたくさんあるので活用すべきだと思う。

意見 関連が強いMLA連携はメインでやって行った方が良いと思う。

意見 図書館には、サービスの提供だけでなく、京都市の文化とか価値観を世界に発信するという役割があると思う。

今年は、京都市の世界文化自由都市宣言40周年でもあり、図書館はやはり文化の顔なので、市内に留まらず、グローバルを視野に入れ、世界への情報発信や広報に力を入れるべきである。

意見 高齢者関係施設との連携がいろいろな館で進めばよいと思う。認知症の方など高齢で介助が必要な方の図書館の利用が進み、そういった方たちの知的活動の満足感につながればよいと思う。

現実的には図書館での対応が難しい場合も多々出て来ると思うが、高齢者関係施設と連携をとりながら、図書館側の受け入れの理解促進や困ったことの相談などを進めていけばよいと思う。

高齢者関係施設側も業務が多岐にわたる中で時間をさけるのかという課題もあると思うが、お互いに歩み寄れば、それが地域で高齢者の方を支援して行くところに繋がる

と思う。

子育ての面でもそれと同様に、図書館と専門機関との連携を取って行けばよいと思う。

意見 スマートフォンに「はぐくみアプリ」を入れている乳幼児保護者の方が多い。そういうところにリンクして図書館を宣伝し、乳幼児の保護者に図書館へ行ってみようという気持ちにすることが大切だと思う。

意見 一般の方の側から図書館に興味を持たせるようにするのはなかなか難しいと思う。既に広まっているところに、リンクをしていくことが大事だと思う。

意見 考古資料の展示、世界への情報発信、多言語対応など、行っていった方がよいことは様々あるけれども、人の確保が課題になって来ると思う。専門性で参加するボランティアの活用も一つの方法ではないかと思う。

意見 高齢者の図書館の受け入れについては、以前は郷土資料の勉強の場所が欲しいなど、元気な高齢者の方の学びの場の提供という課題であったが、今後は認知症の方などへの対応など、元気な方とそうでない方の両側面を考えていかなければいけないと思う。

意見 多言語サービスに関する提案として、書架に本の紹介とQRコードを貼りつけておいて、利用者がスマートフォンでそのQRコードを読み込むと、日本語・英語・中国語・韓国語の電子書籍が読めるようにすればどうか。

回答 意見をいただいたので、できるところから、少しずつであるが実現していきたい。

## 6 事務連絡

## 7 閉会